

イエスの聖テレサ（アヴィラの聖テレジア）1515年～1582年

現在、跣足カルメル修道会では、全世界でイエスの聖テレサ生誕 500 周年の準備に入っています。2009年10月15日（イエスの聖テレサの公式祭日）から始まり、2010年10月15日までは、彼女の『自叙伝』を黙想・考察してきました。次の一年間に黙想・考察する作品が『完徳の道』です。今年の10月15日まで行うことになっています。

日本のカルメル会（男子、女子、在俗者会）においても、各コミュニティ・各会員が彼女の作品を黙想・考察をしています。それぞれの作品の『ガイドライン』が各コミュニティに配布され、それに基づいて黙想・考察を行っていますので、興味のある方は、各コミュニティに問い合わせると良いでしょう。さて、ここでは、簡単にイエスの聖テレサの紹介とその時代背景について記すことにします。

《彼女の略歴》

1515年3月28日、今のスペインのカスティーリャ地方のアヴィラで、テレサ・デ・アウマダとして生まれてきました。父はドン・アロンソ・サンチェス・デ・セペタ、母はドニャ・ベアトリス・アウマダといいますが（ドンとドニャは当時の社会的な身分の称号）。父アロンソは、ベアトリスと結婚する前に（1509）、前妻にカタリナ・デル・ペソと結婚しましたが（1505）、死に別れました（1507）。

兄弟姉妹については、前妻のカタリナとの間に、二人の子供（マリアとフアン・バスケス）がおり、後妻のベアトリスとの間に、10人の子供をもうけました。最初からみますと、テレサの前にフェルナンド、ロドリゴがおり、彼女の後に、フアン、ロレンソ、アントニオ、ペドロ、ヘロニモ、アグスチン、最後にフアナとなります。

1528～1529年（?）、母ベアトリスが亡くなります。

1531～1532年、テレサは父アロンソによって、アヴィラのアウグスチノ修道女会の寄宿学校、サンタ・マリア・デ・グラシアに入れられます。その後、病気になる、翌年には寄宿学校を出て、姉のマリアのもとで静養のために滞在し

ます。この静養の間、叔父のペドロのところで出会った霊的書物の影響で、彼女の召命が膨らんでいきます。

1535年、アヴィラのカルメル会エンカルナシオン修道院に入会します。

1536年、テレサの着衣。

1537年、テレサ・アウマダの修道誓願宣立。

1538年、テレサは、修道院で病気になります。再び、姉のマリアの家で静養するために修道院から外出し、途中、叔父のペドロのところで、フランシスコ・オスナの『念祷の第三の **A-B-C**』という作品に出会い、静養中に、この本で祈りを深め始めます。

1539年にベセダスというアヴィラの片田舎で民間治療を受けて、瀕死になり、**8**月にはアヴィラの父の家に戻されて、仮死状態になります。意識が戻ったのちに、修道院の病室で**1542**年まで過ごすことになります。

1543年、父アロンソが亡くなります。

1554年、テレサの決定的な回心の恵みが訪れます。この後、彼女はキリストとの神秘生活に入っていきます。

1559年、カスティーリャ語の霊的書物が異端審問所によって禁書となり、テレサも霊的書物を火に入れます。しかし、キリストの「これから私が生きた書物を与えよう」という内的声を聴くことになります。

1560年、「心臓への神秘的矢」を受けたテレサは、人生の新しい段階に入ります。後にこのことを「霊的婚約」と彼女が解釈します。この神秘的恵みを受けた後、「地獄の幻視」を受け、新しい修道院創立へとキリストから駆り立てられます。同時に、この時期、フランスではプロテスタントとカトリックの宗教戦争がはじまります。

1562年、**8**月**24**日、アヴィラの司教の管轄の下で、サン・ホセ修道院（テレサ的カルメルの最初の修道院）が創立されます。

1565年、ピオ四世教皇より、福音的清貧の勅書を受け取ります（年金なしの修道院創立の許可である）。また同じ年に、彼女の大作『自叙伝』を完成。その後、『完徳の道』の執筆に取り掛かり、同時に『最初の会憲』の作成にも取り掛かります。『完徳の道』と『最初の会憲』は**1567**年には完成されたであろうといわれています。

1567年、カルメル修道会の時の総長、ルベオ神父が、スペイン視察に来た際に、テレサと出会い、彼女にこれからの女子修道院創立許可を与えます。また、同時にテレサ的カルメルの男子修道院の創立の許可も与えます。ただし、サン・ホセ修道院は、この時点では、教区司教の管轄下に置いたままにしました。同年にはメディナ・デル・カンポにカルメル修道会総長の管轄下で地方教会の司教の認可の下に第二の修道院が創立され、**1582**年の彼女の帰天まで、創立が続けられることとなります。

《つづく》